

2026年度DX事業提案会

「はぐくみシティー」 創成プロジェクト

子供の特性データを用いた先進実証
一宮研伸大学 / Almaprism株式会社

10歳という年齢、10歳の壁

- 思春期の手前、ともすれば体の発達と脳の発達がアンバランスになる
- 社会生活や対人関係がひろがる、より複雑な課題遂行が求められる
- 小学校で上級生になる、学習内容が高度化、複雑化する
- 個人差がでる、脳機能の特性、得意不得意がより顕著になる

デジタルタスクを用いた10歳児の特性把握イベント

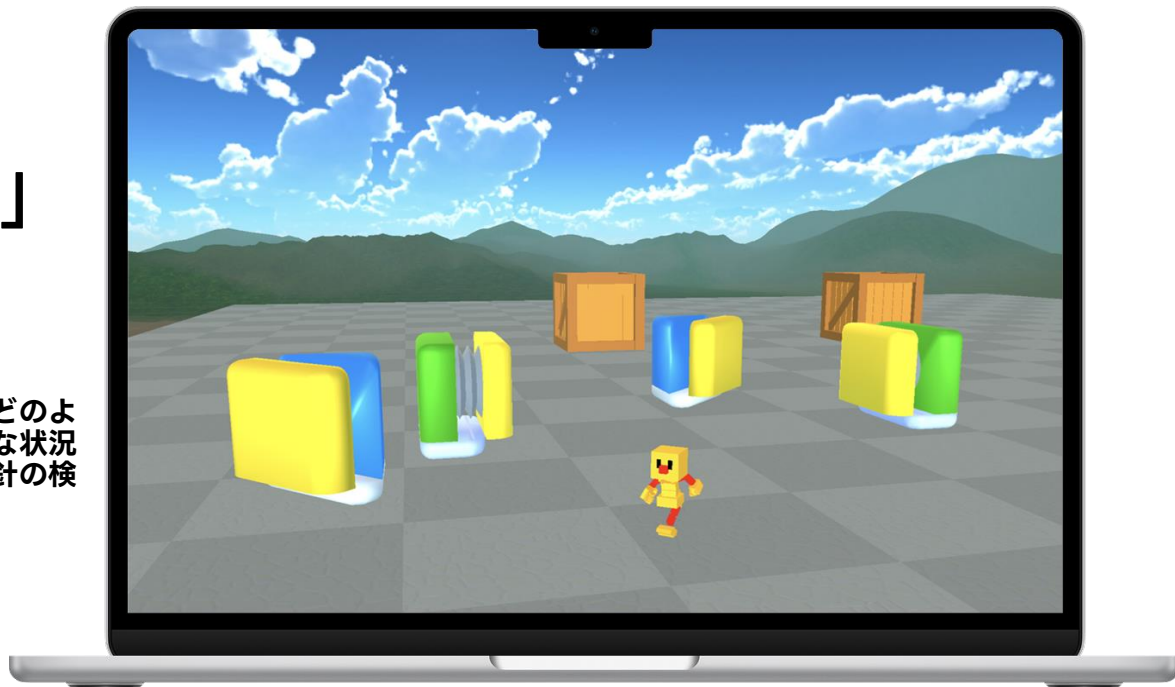
- 簡単なデジタルタスクを用いて認知特性を測定し、結果をご家族と共有する
 - 子供がどのような特性をもつのか、特性を活かすにはどういうことを意識すればいいか、を知るきっかけに
- データを元に適切な支援サービスに連携する、サービスのプレゼンスをあげる
 - 家庭から地域へつながる育ちの環境整備の道標



ソリューション

考え方の特性を測る ビデオゲーム「ARC」

- 8歳～18歳対象のPCビデオゲーム
- しかけを配置し、ピンボールを作る
- ゲーム中の行動データから、その子が「どのような考え方をしているか」そして「得意な状況」「行動のクセ」など初回面談や支援方針の検討に使える手がかりを出力



Almaprism

本提案でやること：「親子で特性を知るためのイベント」を一宮市で実証

1

誰に

一宮市の地域の
10歳前後の子どもと
その保護者

2

何を

ゲーム形式のARCを体験し、特性レポートを親子で見ながら生活の工夫について話す

3

何のために

家庭での関わり方や、学び・生活の工夫を考えるきっかけにする

4

どう判断するか

費用・参加者価値・ニーズ・地域連携を検証する

継続的な取り組みとしての検討の前に、
まず一宮市で「実施できるか」「価値があるか」「続けられるか」を確認

VALUE1

支援との連携

子育て家庭に、ハードルの低い自然な接触機会を作る。

VALUE2

地域での信頼

特性データに基づく支援ネットワークの実績は、子育てをする環境としての地域への信頼につながる

VALUE3

将来事業の芽

教育・医療保障・家族支援に連なる家族向けサービスとしての継続的な実施の可能性を検証する。

最小の地域の運用パッケージを作り、「一宮モデル」として他地域展開も可能に